

フェンシング専門部・熱中症対策ガイドライン

危機管理委員名 小藤 敦海
(所属校名) 栃木翔南高等学校

熱中症対策

事前の対策

- ・大会時期や日程を考える際に、できる限り気温の高い時期を避けて設定する。また、1日あたりの試合数があまり多くならないように配慮する。
- ・熱中症を含め傷病者が出た場合の対応をスタッフ全員が把握し、全員が対応できるようにする。
- ・選手自身にも熱中症に関する知識を身につけさせておく。
- ・暑さに慣れるために、大会前に十分に練習に参加ができていない場合は、大会に参加させない。

大会／試合時の対策（当日の対応）

- ・WBGT計を使用し、会場内の暑さ指数を測定する。その指数に基づき、大会の中止や日程等を見直す必要がある場合は見直しをする。
- ・氷や経口補水液等を準備し、熱中症の選手が出た場合に即対応する。必要に応じて医療機関へ搬送する。
- ・熱中症を予防するために試合がない時にはユニフォームを脱いだり、水分補給をこまめに行ったりするように放送で呼びかける。
- ・試合進行を無理に早めず、選手が十分に休めるようにする。
- ・試合前日や試合当日の健康状態、食事の有無、睡眠時間等を各チームの監督がチェックを行い、体調が万全でない場合は、大会に参加させない。
- ・クーラーや大型扇風機等を使用し、会場内を涼しくする。